

2022年3月期決算および  
2023年3月期事業計画説明会

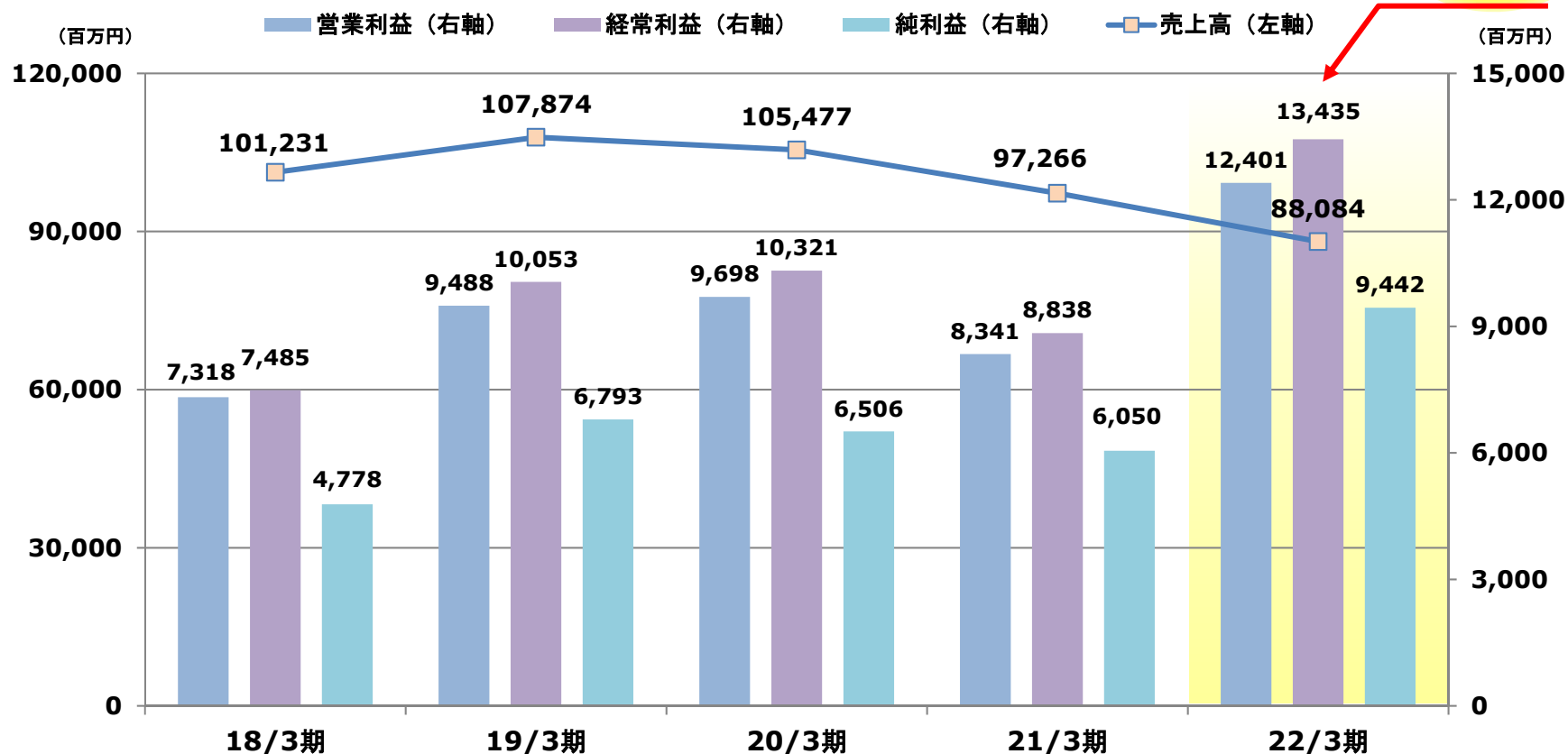
2022年6月2日

## 2022年3月期 業績

# 業績推移(18/3期~22/3期)

- 今期から適用した収益認識基準の影響を除くと、売上高は実質増収を達成
- 各段階利益は過去最高を大幅に更新

売上高および営業利益、経常利益、当期純利益の推移



(※)22/3期より「収益認識に関する会計基準」を適用

# 2022年3月期 概況

- 期初計画を大幅に上回るとともに、中計の業績目標(売上高800億円、営業利益100億円、ROE8.5%以上)を1年前倒しで達成

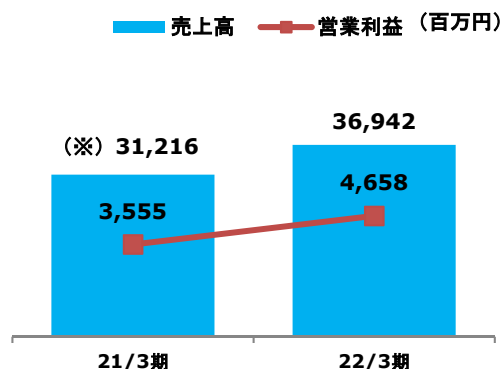
(百万円)	21/3期		22/3期		増減率 (%)	増減額	22年3期 期初計画	達成率 (%)	差異
		構成比 (%)		構成比 (%)					
売上高	97,266 (※)75,679	—	88,084	—	▲9.4 (※)16.4	▲9,182 (※)12,405	75,500	116.7	12,584
営業利益	8,341	8.6 (※)11.0	12,401	14.1	48.7	4,060	9,000	137.8	3,401
経常利益	8,838	9.1 (※)11.7	13,435	15.3	52.0	4,597	9,700	138.5	3,735
当期純利益	6,050	6.2 (※)8.0	9,442	10.7	56.1	3,392	6,800	138.9	2,642
一株利益(円)	257.37	—	404.73	—	—	—	291.51	—	—
海外売上高	(※)26,524	27.3 (※)35.0	31,807	36.1	—	5,283	—	—	—

(※)21/3期は「収益認識に関する会計基準」を適用したと仮定して算出

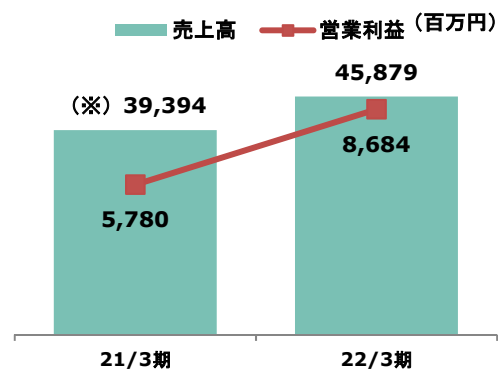
	21/3期	22/3期
U S \$ / 円	106 円	112 円
ユ ー ロ / 円	123 円	131 円
ナフサ(円/KL)	30,750 円	55,500 円

# セグメント別売上高・営業利益比較

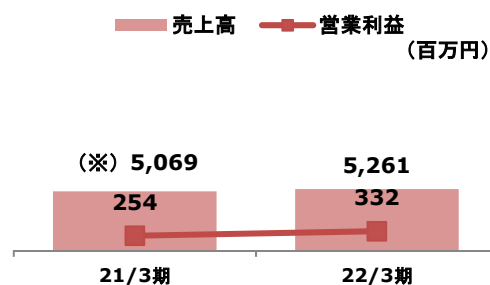
## 基礎化学品



## 機能化学品



## 住宅設備ほか



(※)21/3期は「収益認識に関する会計基準」を適用したと仮定して算出

## ■ 全セグメントで増収増益を達成

### コロナからの需要回復、電子材料需要の拡大で増収増益

- クロール・アルカリ  
期を通じて新型コロナウイルス感染症の景気落ち込みから需要が回復
- エピクロルヒドリン  
電子材料関係の需要が好調に推移、原燃料価格高騰を受けて実施した価格改定が浸透

### 合成ゴム・合成樹脂の需要回復と

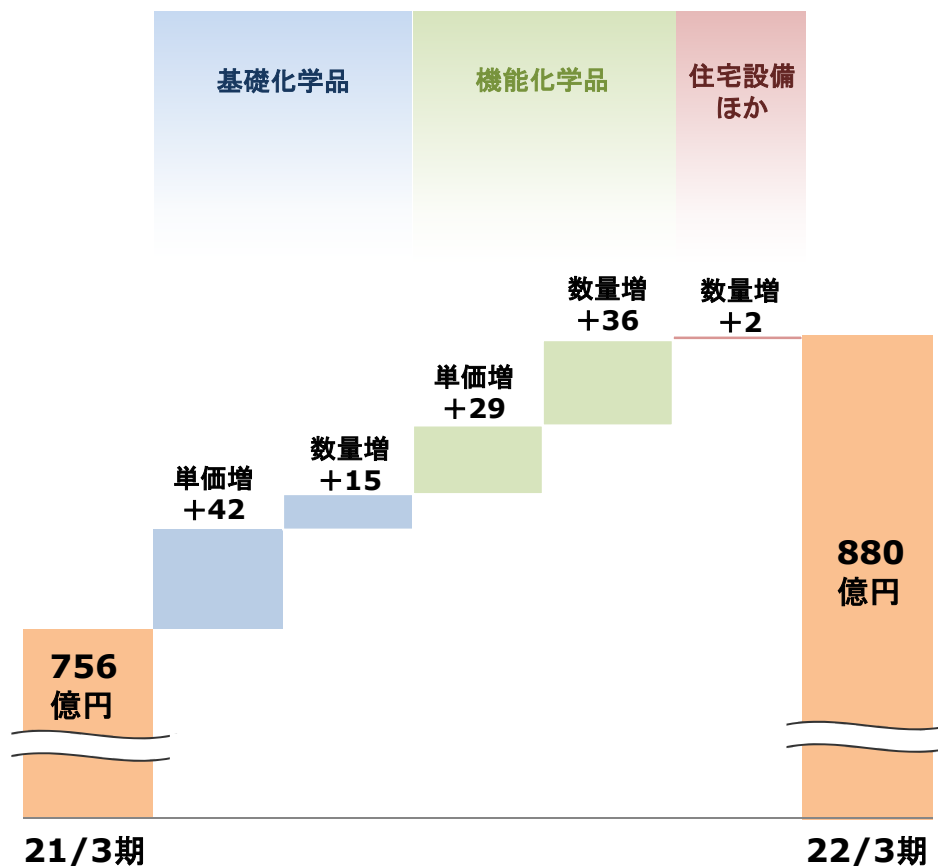
### アリルエーテル類、ヘルスケアの需要拡大で増収増益

- 合成ゴム  
エピクロルヒドリンゴムは自動車向け需要回復、OA向け需要が拡大  
アクリルゴムは国内外で新規採用が拡大、海外ではアジア中心に伸長
- 合成樹脂  
アジア・欧米向けUVインキで需要回復、国内では電子材料で需要増加
- アリルエーテル類  
機能性塗料、電子材料向けでシランカップリング剤の販売が好調に推移
- ヘルスケア  
医薬品精製材料は欧米・アジアで糖尿病治療薬の需要が拡大  
医薬品原薬・中間体は受託案件の販売が順調に推移  
(抗結核薬、抗がん剤、血流改善薬など)

- 生活関連商品の販売等が堅調に推移
- プラントエンジニアリングの大型案件が増益に貢献

# 売上高要因分析

## セグメント別 要因分析



## 主要製品別 増減分析

### 基礎化学品

+57(億円)

製品	増減額(億円)
エピクロロヒドリン(EP)	+40
クロール・アルカリ	+10
その他	+7

### 機能化学品

+65(億円)

製品	増減額(億円)
合成ゴム・合成樹脂 ※1	+17
アリエーテル類	+14
ヘルスケア ※2	+12
電極	+7
カブラス	+4
その他	+11

※1 合成ゴム・合成樹脂:エピクロロヒドリンゴム、ダップ樹脂等

※2 ヘルスケア:クロマト(医薬品精製材料)、医薬品原薬・中間体等

### 住宅設備ほか

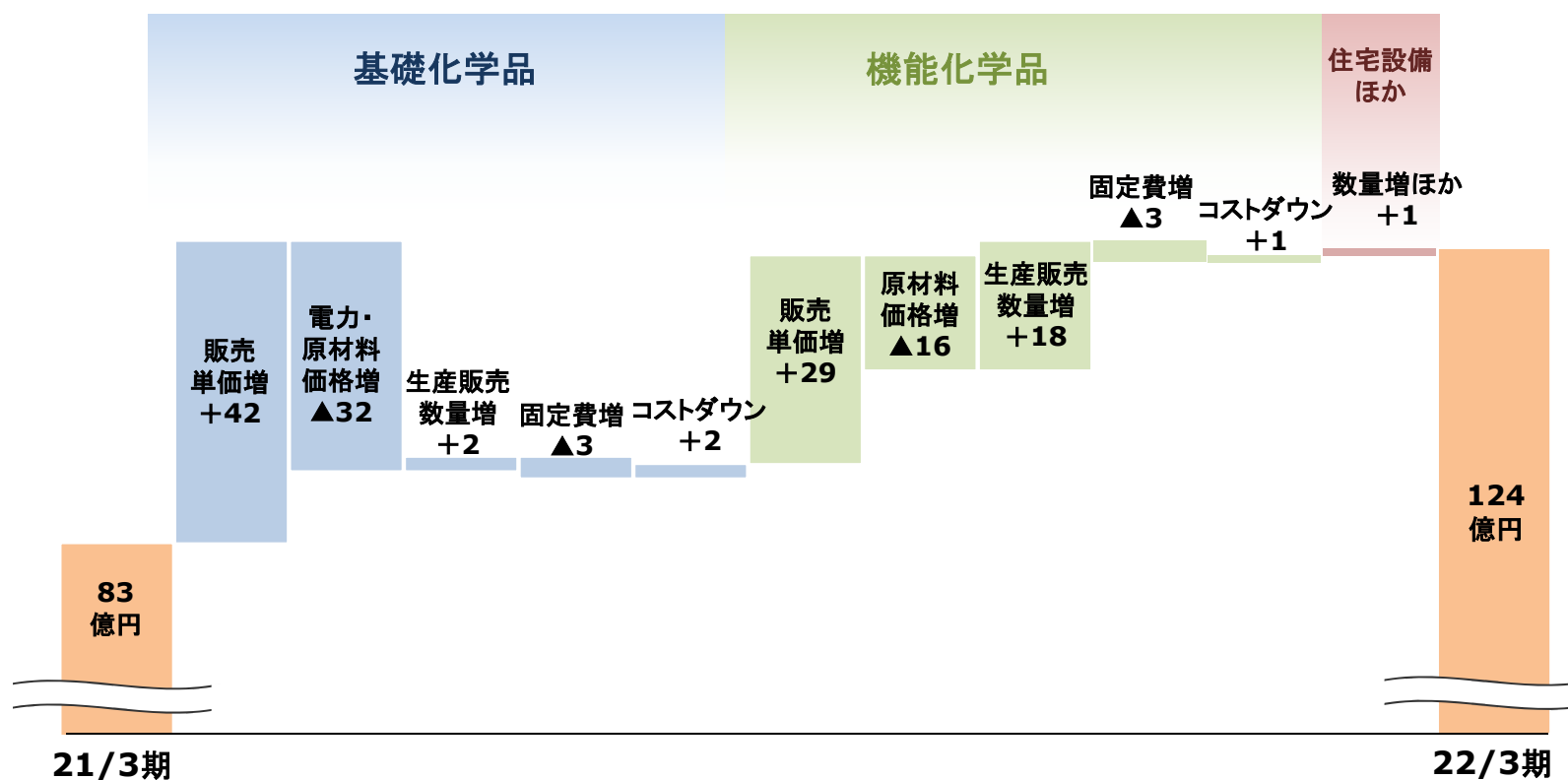
+2(億円)

製品	増減額(億円)
生活関連商品ほか	+2

# 営業利益要因分析

- 基礎化学品は原燃料価格高騰の影響を価格是正によりカバー、基幹原料であるアリルクロライド(AC)の収率改善等の生産コストダウンも寄与
- 機能化学品はアリルエーテル類を中心に価格改定が浸透し原材料価格の影響を吸収ヘルスケア、合成ゴム・合成樹脂などの高付加価値製品の販売数量増が貢献

セグメント別 要因分析



# 貸借対照表、キャッシュ・フロー計算書

- 収益性の向上により、自己資本利益率は11.7%(過去最高)に上昇
- 中期経営計画(21~22年)で掲げた投資計画(150億円)は概ね予定通りに進捗中

(百万円)	20/3期	21/3期	22/3期	前期比
総資産	110,851	119,373	129,159	9,786
純資産	69,121	77,232	83,896	6,664
自己資本比率	62.4%	64.7%	64.9%	0.2%
有利子負債	17,767	15,909	15,905	▲4
自己資本利益率(ROE)	9.7%	8.3%	11.7%	3.4%

(百万円)	20/3期	21/3期	22/3期	前期比
営業活動によるキャッシュ・フロー	10,336	9,347	13,378	4,031
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲4,092	▲1,850	▲6,961	▲5,111
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲1,677	▲4,464	▲1,646	2,818
現金および現金同等物	28,899	31,936	37,016	5,080



# 2023年3月期 事業計画

# 2023年3月期 事業計画

- 基礎化学品の原燃料価格上昇に対応した価格改定の推進と、機能化学品やヘルスケアなどの高付加価値事業の拡大を想定し、増収増益を見込む
- 各段階利益は2期連続で過去最高更新する計画

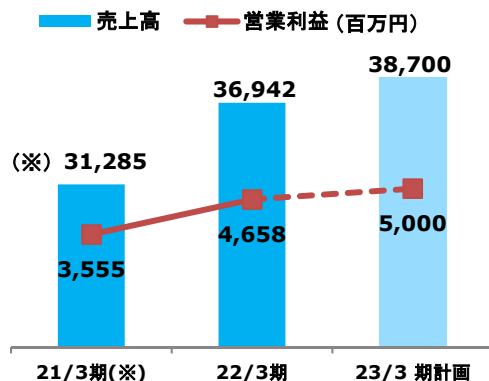
(百万円)	22/3期		23/3期計画		増減率(%)	増減額
		構成比(%)		構成比(%)		
売上高	88,084	—	94,000	—	6.7	5,916
営業利益	12,401	14.1	13,000	14.5	4.8	599
経常利益	13,435	15.3	13,700	14.6	2.2	265
当期純利益	9,442	10.7	9,500	10.1	0.6	58
一株利益(円)	404.73	—	407.16	—	—	—

海外売上高(%)	36.1	35.5
----------	------	------

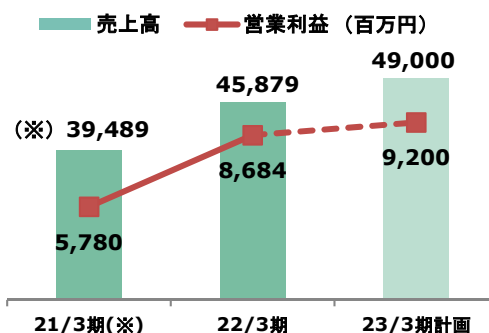
【前提条件】 2023年3月期 想定	
US\$/円	110 円
ユーロ/円	130 円
ナフサ(円/KL)	62,000 円

# セグメント別売上高・営業利益計画

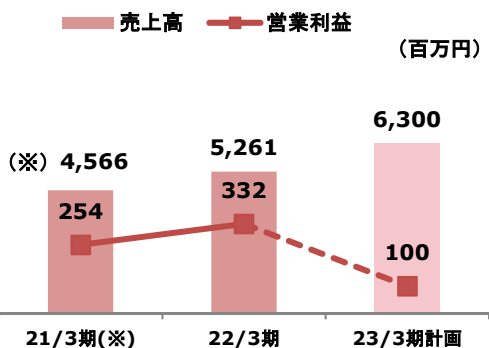
## 基礎化学品



## 機能化学品



## 住宅設備ほか



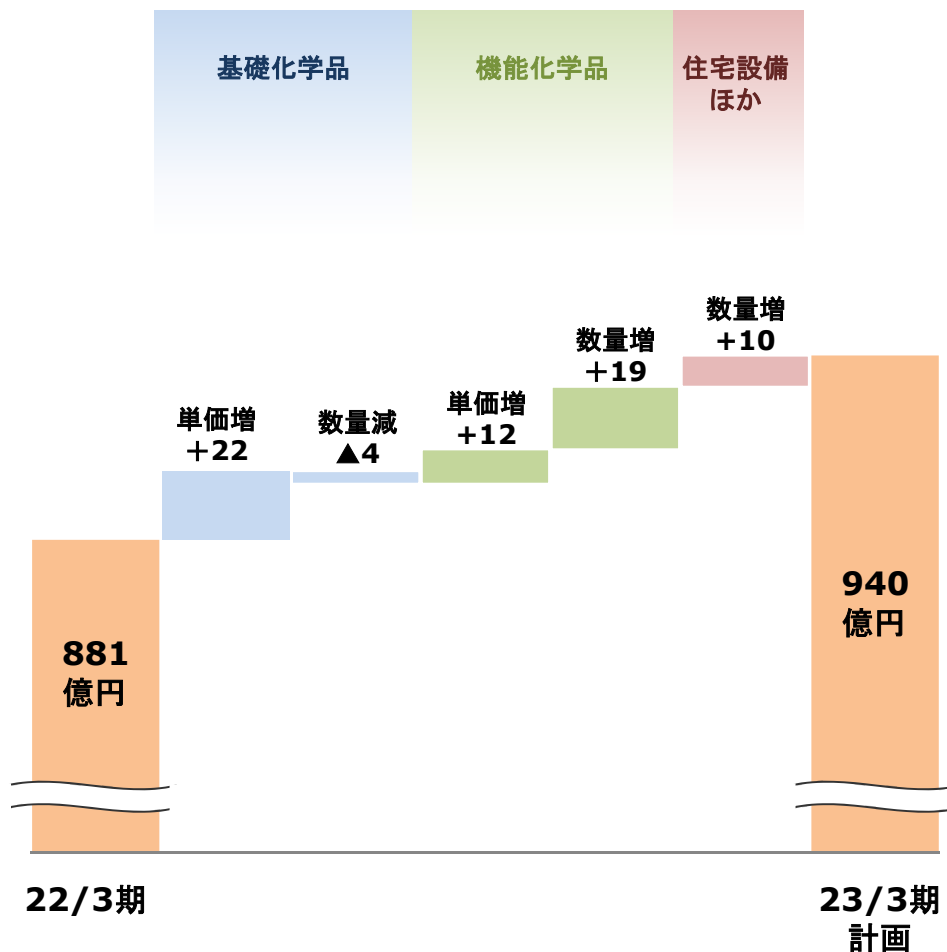
(※)21/3期は「収益認識に関する会計基準」を適用したと仮定して算出

### 事業計画達成に向けた取組み

- クロール・アルカリ  
原燃料価格上昇に対応した価格是正の実施  
北九州電解の生産性向上、かせいかり事業の強化
- エピクロルヒドリン  
国内の電子材料およびアジア需要の取り込みと安定供給体制の強化
- 生産コストダウン  
高効率電解槽の導入 など
- 合成ゴム  
エピクロルヒドリンゴムの他種ゴムからの切替促進、新規用途開発の強化  
アクリルゴムの拡販、超高耐熱グレードの上市促進  
グループ会社との連携によるゴムコンパウンド事業の拡大
- 合成樹脂  
ダップ樹脂の欧米、アジア新興国市場での拡販  
ノンフタレート型アリル樹脂の欧米食品パッケージ用途への採用拡大
- アリルエーテル類  
増強した製造能力を活用し、拡大する機能性塗料や電子材料向け需要の取り込み
- ヘルスケア  
医薬品精製材料の新興国および欧米市場でのシェア拡大  
医薬品原薬・中間体の需要増加に対応した生産体制の強化  
成長分野である高薬理活性医薬品での新規案件の獲得を推進
- プラントエンジニアリング・生活関連商品など  
生活関連商品の自社企画商品等の販売を強化  
プラントエンジニアリングの需要は堅調、セールスマックスの変化を想定

# 売上高要因分析(予想)

## セグメント別 要因分析



## 主要製品別 分析

### 基礎化学品

+18(億円)

製品	増減額(億円)
クロール・アルカリ	+36
エピクロルヒドリン(EP)	▲12
その他	▲6

### 機能化学品

+31(億円)

製品	増減額(億円)
アリルエーテル類	+12
ヘルスケア ※1	+8
合成ゴム・合成樹脂 ※2	+8
電極	+2
その他	+1

※1 ヘルスケア:クロマト(医薬品精製材料)、医薬品原薬・中間体等  
 ※2 合成ゴム・合成樹脂:エピクロルヒドリンゴム、ダップ樹脂等

### 住宅設備ほか

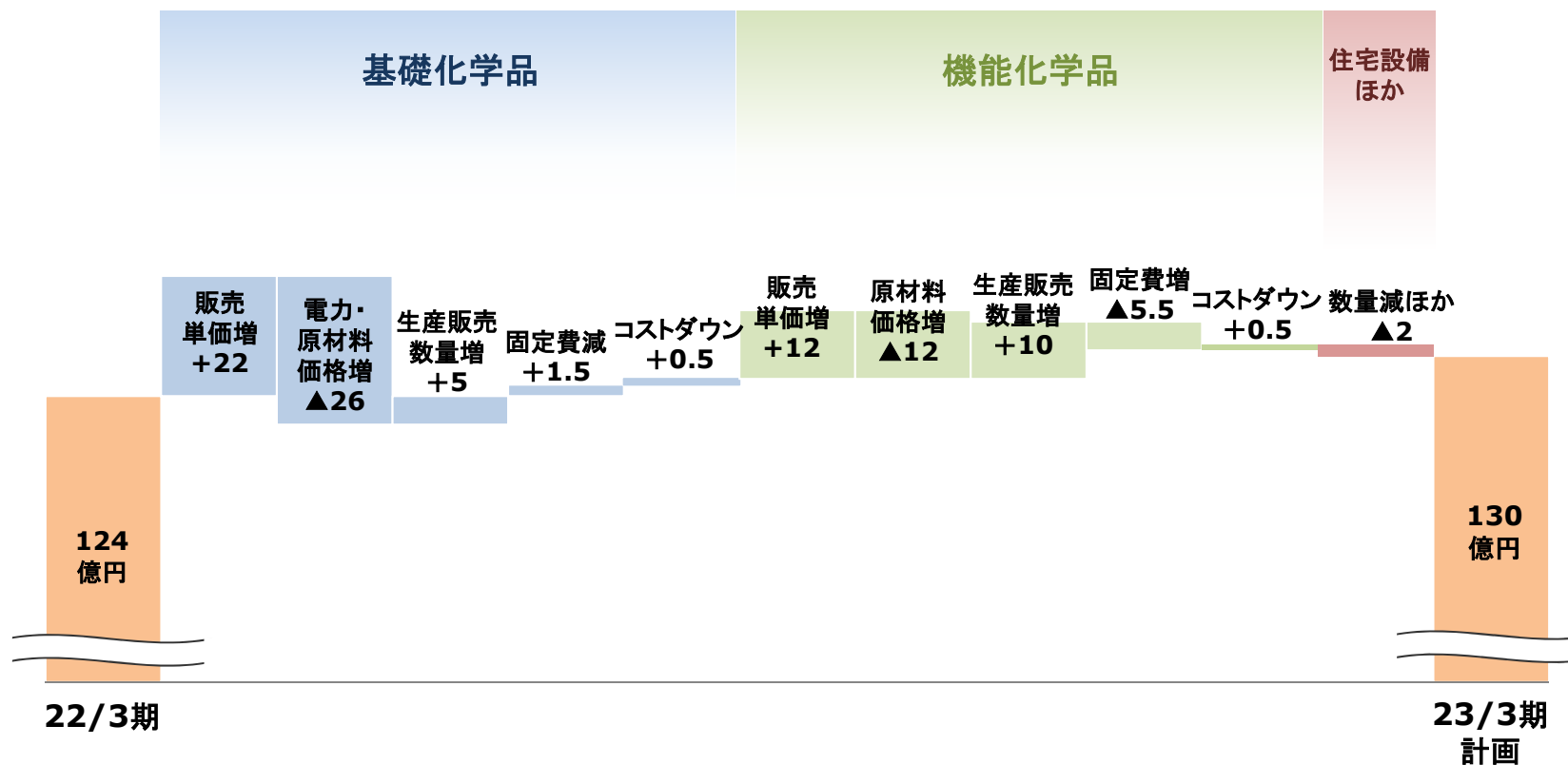
+10(億円)

製品	増減額(億円)
生活関連商品ほか	+10

# 営業利益要因分析(予想)

- 基礎化学品は原燃料価格上昇の影響をクロール・アルカリを中心とした価格上昇と販売数量増により吸収し増益へ
- 機能化学品は前期に増設を完了したアリルエーテル類と、旺盛な需要が続く医薬品精製材料を中心としたヘルスケアの拡販効果を見込む

## セグメント別 要因分析

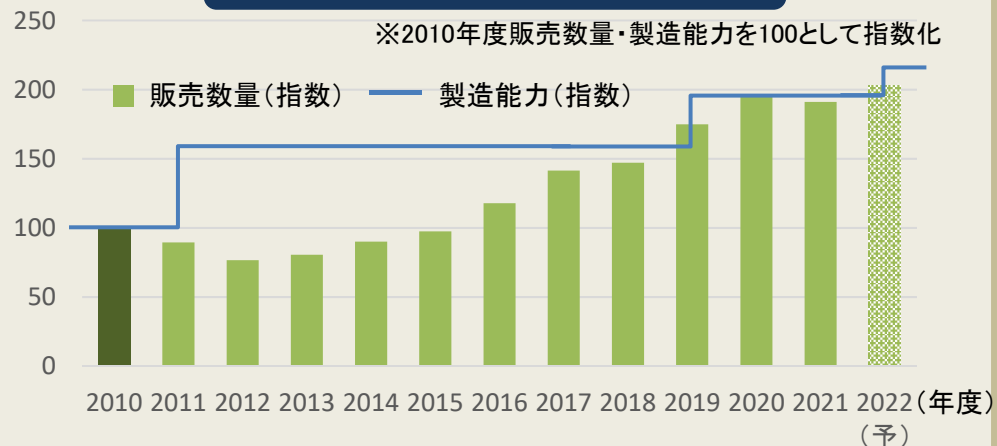


# 持続的成長を続けるアリルエーテル類

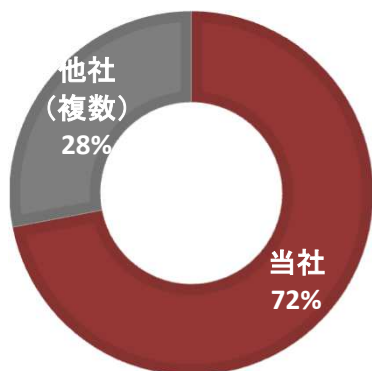
## 当社のポジション・事業概要

- アリルグリシジルエーテルを主軸に世界トップの製造能力および販売実績を有する
- エポキシ系シランカップリング剤の原料とした多彩な用途展開
- 機能性塗料、電子材料用途の需要拡大を取り込み世界シェアの維持拡大を図る
- 2022年2月、製造能力増強を完了(約1.2倍)

## 販売数量と製造能力の推移(指数)

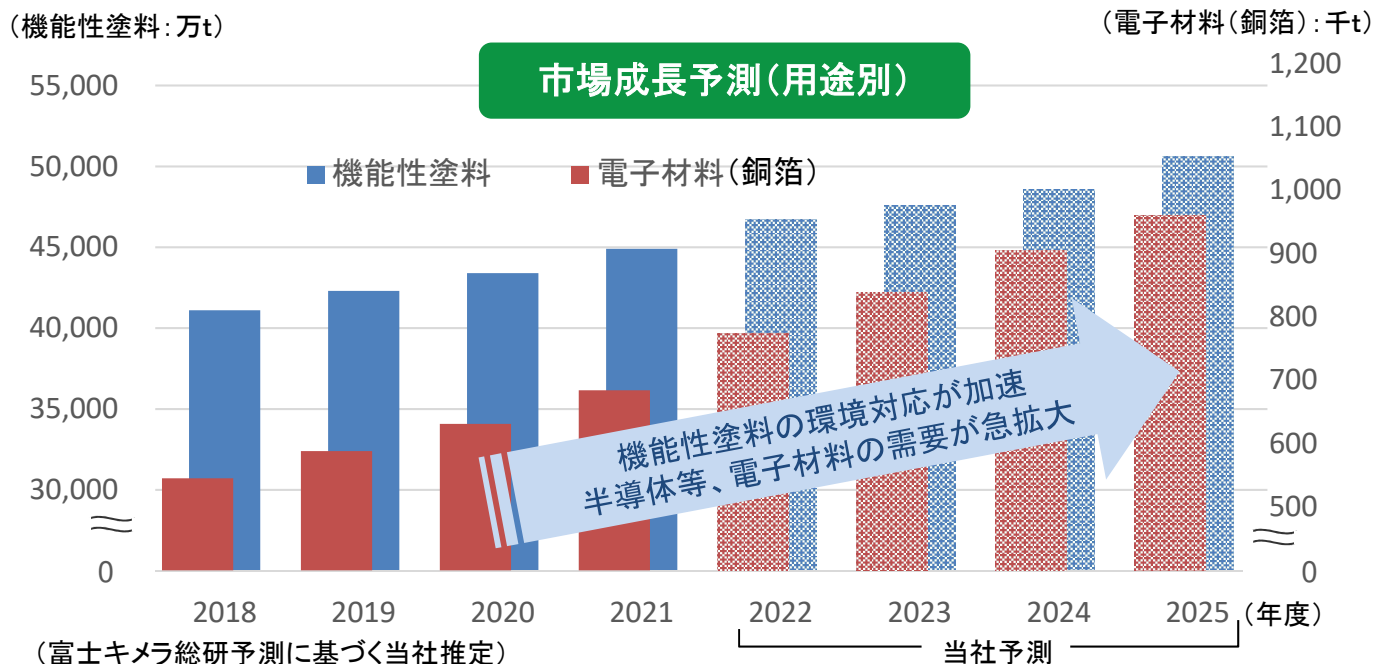


## アリルエーテル類のシェア



(2021年度実績に基づく当社推定)

## 市場成長予測(用途別)



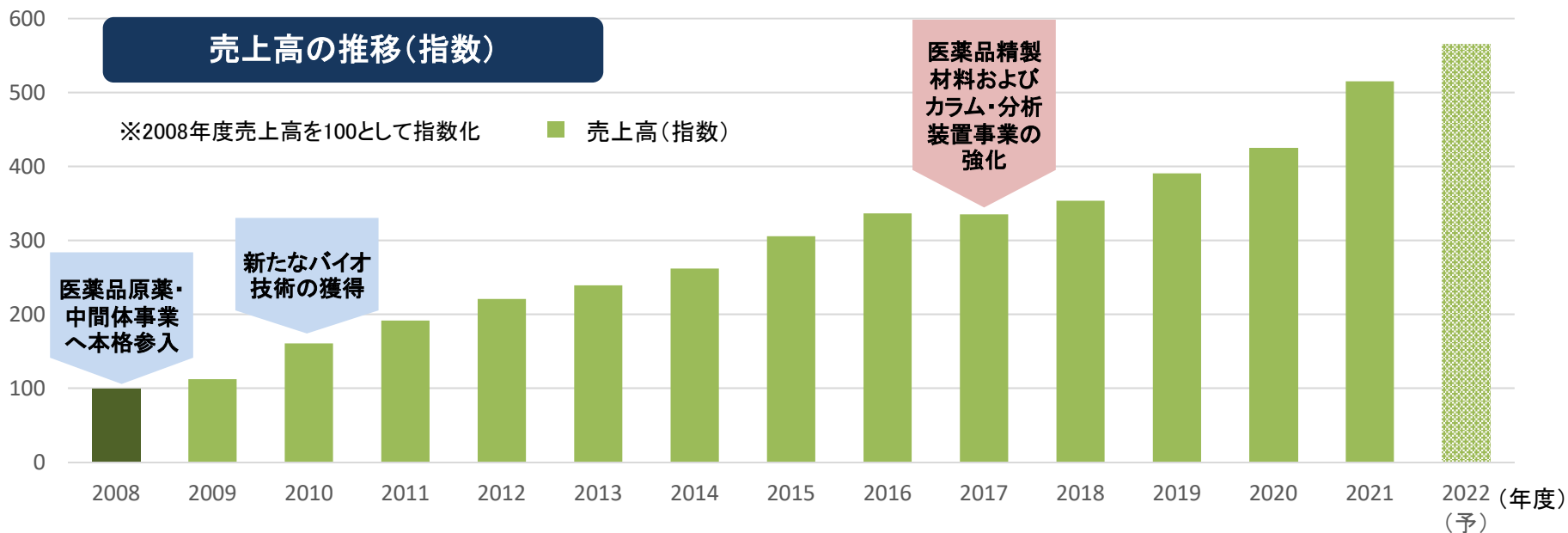
# ヘルスケア事業の歩み

## ヘルスケア事業の変遷

- 1992年 医薬品精製材料(液体クロマトグラフィー用シリカゲル)の製造開始
- 1994年 医薬中間体(キラル化合物)製造設備を新設
- 1999年 医薬中間体製造設備(PI-1)竣工
- 2001年 医薬品精製材料の製造能力を増強
- 2007年 医薬中間体製造設備(PI-2)竣工  
医薬品精製材料製造設備(MS-1)竣工

- 2008年 サンヨーファイン(株)の全株式を取得  
医薬品精製材料製造設備を増強(GMP体制を整備)
- 2010年 サンヨーファイン(株)が(株)食品バイオ研究センターを合併
- 2012年 医薬品精製材料製造設備を増強
- 2017年 高薬理活性医薬品原薬製造設備を新設  
資生堂医理化テクノロジー(株)の全株式を取得(サンヨーファイン医理化テクノロジー(株)設立)  
医薬品精製材料製造設備を増強

## 売上高の推移(指数)



# ヘルスケア:コア事業としての基盤強化

## 医薬品精製材料

糖尿病治療薬をはじめとする低分子・中分子医薬品精製材料の世界トップメーカー



修飾型シリカゲル  
製造設備  
(尼崎工場)

2023年2月 完了予定  
医薬品精製材料製造能力増強(1.6倍)

- 糖尿病治療薬用途向け精製材料の需要拡大に対応
- 新規グレード開発による事業規模拡大
- 次期投資を計画中

## 医薬品原薬・中間体

独創的な有機合成とバイオ技術を用いた受託開発(CDMO)事業を展開



PI-3完成予定図  
(松山工場)

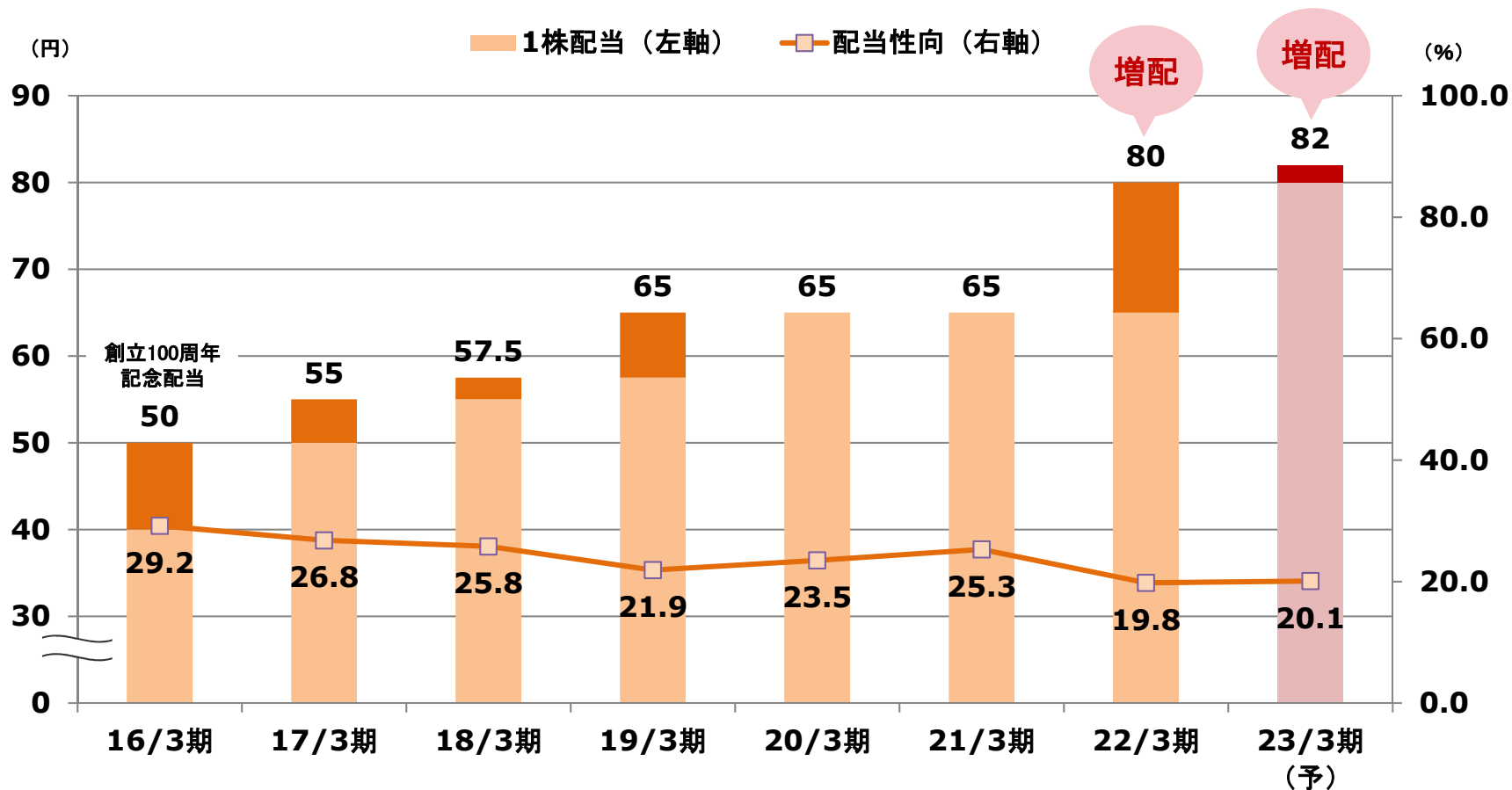
2023年3月 完了予定  
医薬品原薬・中間体製造設備(PI-3)新增設  
(1.5倍)

- CDMOとしての機能強化  
(製造能力、品質保証体制の充実)
- 原薬領域での新規案件開拓を強化



# 株主還元

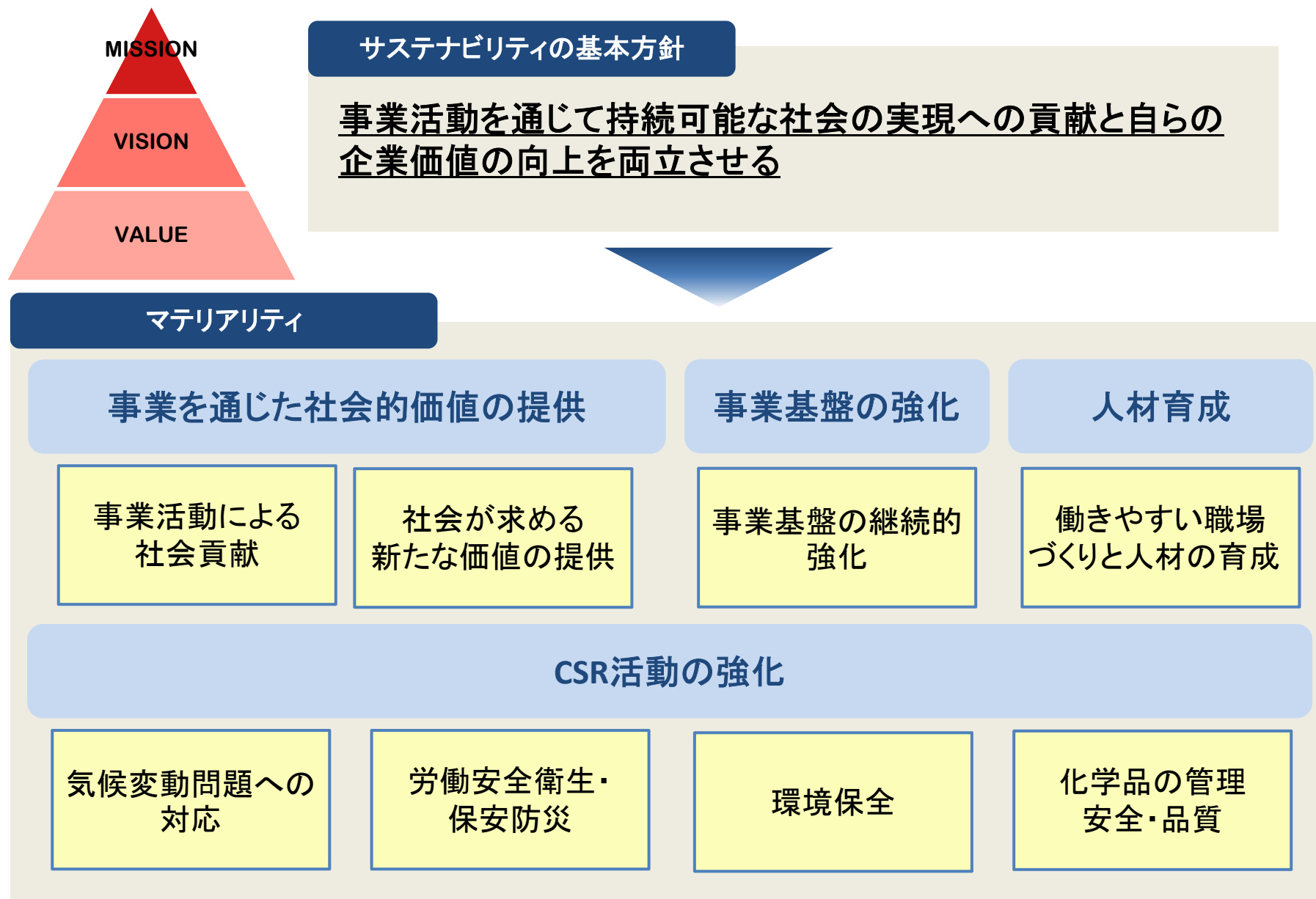
- 22年3月期の年間配当金は、前年同期比15円増の80円とした
- 23年3月期も増益となる業績予想を踏まえ、1株当たりの年間配当金を2円増配予定



※18/3期以前の1株配当は、2017年10月の株式併合後の数値に換算して記載。

## 地球環境保全への取組み

# サステナビリティ経営の実現に向けて



# 地球環境問題への対応

## 気候変動問題への対応

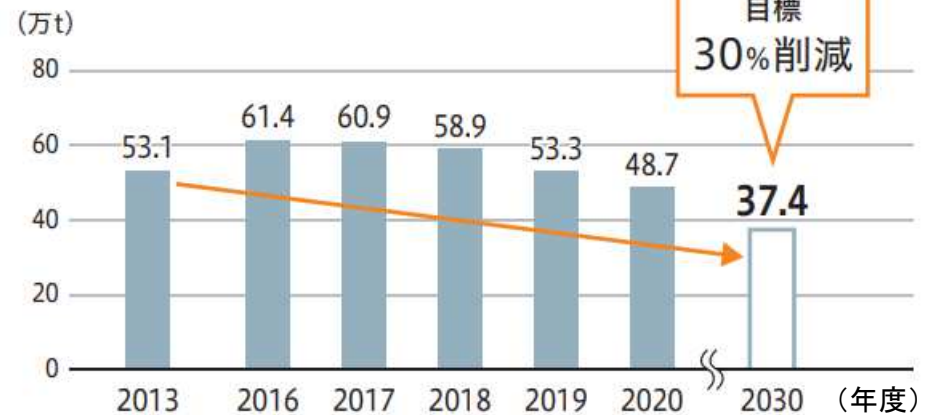
### 温室効果ガス排出削減目標

2030年度:CO2排出量を30%削減

#### 目標達成に向けた施策

(2013年度比)

- 高効率機器の導入
- 省エネルギー活動の推進
- 生産工程の合理化
- グリーンエネルギーの利用促進



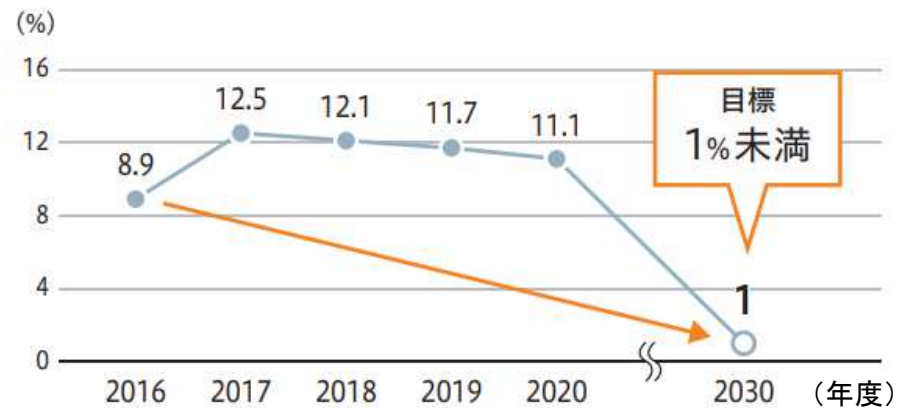
## 環境保全への取組み

### 産業廃棄物埋立処分比率低減目標

2030年度:最終埋立処分率1%未満

#### 目標達成に向けた施策

- ばいじん再資源化率アップ
- 塩水マッドの減容化・再資源化の推進
- 自社内での再利用の促進



# 環境に配慮した素材の開発(次世代蓄電池・材料)

社会が求める新たな価値の提供



環境・エネルギー

## 全固体電池用超高イオン伝導性ポリマーの開発

NEDOグリーン・イノベーション基金事業に採択

グリーン・イノベーション基金

次世代蓄電池  
次世代モーター領域

事業概要・目的

航続距離等に影響する「エネルギー密度」を現在の2倍以上とすること等を目指し、全固体電池等の高性能蓄電池およびその材料を開発する

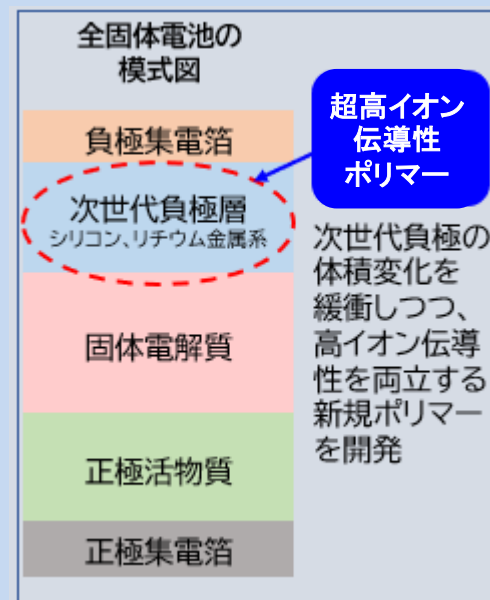
当社の開発テーマの概要

全固体電池実用化への課題

充放電時の電極材料の大きな体積変化  
→高容量系活物質と固体電解質の界面  
でリチウムイオンの移動抵抗が上昇

当社開発テーマのターゲット

次世代負極材料の充放電時の体積変化  
に追従しうる新規ポリマーの開発と、その  
製造技術の確立



**お問合せ先 株式会社 大阪ソーダ**  
**経営企画部 広報グループ**  
**TEL : 06-6110-1560**

本資料は当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的として作成されたものではありません。  
本資料に掲載されている事項は、資料作成時点における当社の見解であり、その情報の正  
確性および完全性を保証または約束するものではありませんのでご了承ください。